

夏瀬の森

だより

令和二年八月二十五日 第八十八号
田殿丹生神社 宮司 嶋田博文

お祭りについて お知らせいたします



平素は神社に温かいご協力、ご理解をたまわりまして誠にありがとうございます。さて、現在も全世界に蔓延して多くの人が苦しんでいる新型コロナウイルスウィルス感染症は、一時沈静化に向かうと思われましたが、夏を迎えてかなりの勢いで再び増加し、第二波襲来の様相を呈しています。この感染症が流行して以来、総代会、区長会、小学校など、様々な立場のお方と今年のお祭りのあり方についてお話をしてまいりました。前月並祭を始めすべてのお祭りの神前式は従来通り厳粛に執り行っておりませんが、春祭りでは餅投げを中止せざるを得なくなりました。

本年の秋祭りは

秋祭りにつきましては八月一日の総代会、九日の区長会とのご相談の結果、本年は残念ながら次の様に秋祭りを実施させていただきます。ご了承ください。



お隣の大阪府の感染者の増加が顕著で、和歌山県でも連日陽性者が発表され、地元有田地方でも感染された方が数名おられ

ました。現状では従来通りの秋祭りの実施はかなりの危険があるとの判断です。ご理解のほどお願いいたします。

神前式について

神前式は十月十一日午前九時より、従来通り執り行います。

お渡りに伴う神事について

子ども神輿によるお渡りは行いません。

三面（獅子舞）、山車、子ども笛太鼓の奉納は行いません。

お渡りは御輿または神籬（柵）にて車等で神前式終了後、役員で行います。（午前中の予定）

餅投げ、露店出店は行いません。

三面奉納の輪番について

各字の順番は一年ずつずらし、来年改めて賢区に三面を奉納していただきます。

寂しい夏祭りでしたが

ぎりぎりまで検討をいたしましたが大変おかげを頂戴致し、今年はお宮花火大会を自粛せざるを得なくなりました。夏の開幕を告げる花火大会ですが、今年も梅雨の長雨が奇跡的に十日には一息つき、これなら花火を上げられるのになあ



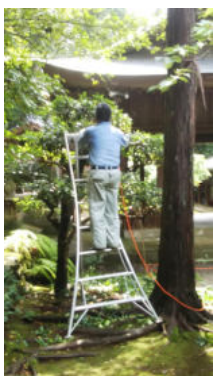
と、悔しい思いをいたしました。翌十一日の夏祭神前式では災害や疫病から守ってくださるようにと、心を込めてご祈禱をさせていただきます。夏祭りを控えた五日には、この日も天人の恵まれ、敬神婦人会の方々約二十名

が神社内外の清掃奉仕を行ってくださり、総代様方も境内の木々の剪定作業に汗を流してくださいました。このような温かい心により、氏神様の力はますます発揮されることと思えます。

夏越大被式

七月三十一日、知らず知らず身に付いた罪穢れを洗い清め、清らかで正常な姿を取り戻し、無病息災を祈る「夏越大被式」を執り行いました。茅の輪をくぐり、氏子様からお預かりした人型を川に流す神事で、疫病が蔓延している今年、特に茅の輪の神事は注目され、お抹茶と和菓子で多くの方にお越しになりました。いつもとは少し場所を変えていただきました。間隔を空けてお参りいただきました。

茅の輪は当日の早朝より総代様方と境内に茅を刈り、境内にて大きな輪を作りました。今年はお参りせずしてただけの午後から翌日の夕刻まで茅の輪を掛けました。参拝された方は各々茅の輪をくぐった後に茅を輪から抜き、自宅や車、身の小さな輪を作りました。



地域の学習

七月十四日、田舎小學校にて田舎歴史についてお話しする機会をいただきました。三年生のお子も達に約一時間お話しさせていただきました。皆さん目を輝かせて聞いてくれました。本当に楽しかったです。



英霊殿の傍らに石碑を

西南の役から大東亜戦争までの田舎地区出身の戦没者百八十一柱をお祀りしている英霊殿は、この四月十一日に竣工祭を執り行うことが出来ました。今度はその傍らに百八十一名のお名前を刻んだ石碑を建てる計画が進んでいます。今年には終戦七十五周年。神社にお参りの際には、平和を祈る英霊殿にも是非ご参拝ください。



どちら様かは存じませんが

境内の隅には小さなトイレを設置してあります。通りますが、先日もよく利用されています。先日掃除をしようとしたら、何と隅々までピカピカになっていました。残念ながら折心得者もいらつしやるのですが、このような嬉しい驚きもありません。

かこのどなたか、存じませぬがどうもありがとうございました。



ホームページへもお越し下さい
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~tadononyujinrya/>